# 第４回
# コメ政策と飼料用米の今後に関する意見交換会２０１９

開催日時：２０１９ 年（令和元年） １１月１３日（水）

１３：００（開場）

開会１３：３０ ～ 終了予定１６：５０

会　　場：食糧会館 中央区日本橋小伝馬町 15-15 会議室

（５階 A/B 会議室）　定員：７０名

対　　象：関係官公庁（農林水産省、自治体など）、

コメ生産者/流通業者、畜産生産者/流通業者、農業団体、

飼料製造/販売業者、物流業者、消費者団体、学生、

研究･教育関係者、報道関係者 等

**主　催　一般社団法人 日本飼料用米振興協会**

# 第４回　コメ政策と飼料用米の今後に関する意見交換会２０１９

## 目　次


開催要領　３

参加者名簿　４

◆　開会挨拶 一般社団法人 日本飼料用米振興協会　理事長　海老澤恵子

基調講演１
「飼料用米の推進について」

川口 正一　　企画係長：農林水産省／政策統括官付穀物課 企画班　６

基調講演２

「飼料用米の位置づけと今後の展開方向：生産、利用、消費、政策の各サイドから考える」

信岡　誠治　　一般社団法人日本飼料用米振興協会　理事　　博士（農学）　２５

小針　美和　　株式会社 農林中金総合研究所　調査第一部　主任研究員　３３

山野 薫　　一般社団法人　農業開発研修センター　研究員　　博士（農学）　４１

小川　真如　　一般財団法人　農政調査委員会　専門調査員　博士（人間科学）・修士（農学）　４８

◆意見交換会（質疑応答を含む）

◆結語　加藤 好一 副理事長（生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 会長）


全体進行　若狭　良治　一般社団法人日本飼料用米振興協会　理事・事務局長

**今回の学識経験者（有識者）の基調講演は研究者としての問題意識・見解であり、所属組織の公式見解ではありませんのでご承知ください。意見交換会で参加者による自由闊達な意見の交流を期待いたします。皆様方の貴重なるご意見が国や自治体をはじめ様々な組織、事業などの農業政策・事業方針・活動などに反映されることを希望しております。**

# 主　　催：一般社団法人 日本飼料用米振興協会

# 第４回　コメ政策と飼料用米の今後に関する意見交換会２０１９

**開催趣旨：**

令和元年産水稲の作付面積（子実用）は146万9,000ha（前年産に比べ 1,000ha減少）となった。

また、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付見込面積は137万9,000ha（前年産 に比べ7,000haの減少）が見込まれる。

10月15日現在における水稲の全国の10ａ当たり予想収量は529kg（前年 産並み）が見込まれる。

これは、北海道、東北及び北陸では、全もみ数が平年以上に確保され、登熟も順調に推移したことにより、作柄は平年以上となったものの、その他の 地域では、7月上中旬の低温・日照不足の影響により、全もみ数がやや少ない地域があることに加え、登熟も8月中下旬の日照不足、その後の台風による潮風害等やウンカ等病害虫の影響があったことにより、作柄が平年を下回る地域が多いためである。

地域別の10ａ当たり予想収量は、北海道は571kg（前年産に比べ76kg増加）、東北は586kg（同 22kg 増加）、北陸は540kg（同7kg 増加）、関東・東山は 522kg（同 17kg 減少）、東海は 491kg（同4kg 減少）、近畿は503kg（同１kg 増加）、中国は503kg（同 16kg 減少）、四国は 457kg（同 16kg 減少）、九州 は 440kg（同 72kg 減少）が見込まれる。

以上の結果、予想収穫量（子実用）は 777万1,000t（前年産に比べ9,000t減少）が見込まれる。

このうち、主食用作付見込面積に 10a当たり予想収量 を乗じた予想収穫量（主食用）は、727万ｔ（前年産に比べ5万7,000t減少） が見込まれる。

その中で私共の推進しております飼料用米の近年の動きは、主食用米価格が堅調なことから価格関係で稲作生産者は、水田作付は主食用米へ傾倒する動きがみられ、令和元年産の飼料用米の作付面積は7万2,499haと前年よりさらに9%ほど減少してきております。

このように飼料用米を巡る動きは中だるみ状況にありますが、基本的には国産飼料原料の確保と水田フル活用の側面から当協会としては引き続き飼料用米の普及拡大を掲げて、稲作生産者や利用する畜産生産者の連携と消費者への浸透を目指してまいります。

先般の日米貿易協定の妥結など外部環境の変化もありますので、多くの参加者を得て、有意義な意見交換会を開催したいと考えます。

今回は農林水産省穀物課様と有識者の皆さんから基調講演をいただき、会場の皆様と「コメ政策と飼料用米の今後に関する意見交換会」を開催します。

とくに有識者の皆さんには今後の日本のコメ政策や飼料用米に関する議論をするに際し、生産、利用、消費、政策の各サイドからご意見を出していただき会場の皆さんと活発な意見交換を行っていきます。

※　作況については、農林水産省発表資料による。

**開催日時：**２０１９ 年（令和元年）１１月１３日（水）
１３：００（開場）　開会１３：３０ ～ 終了予定１６：５０

**会　　場：**食糧会館 中央区日本橋小伝馬町 15-15 会議室（５階 A/B 会議室）収容人員　７０名
http://www.zenbeihan.com/overview/outline.html （詳細は HP から）

**対　　象：**関係官公庁（農林水産省、自治体など）、コメ生産者/流通業者、 畜産生産者/流通業者、
農業団体、飼料製造/販売業者、物流業者、消費者団体、 研究･教育関係者、報道関係者 等

**主　　催：**一般社団法人 日本飼料用米振興協会

**プログラム**（氏、様などの敬称を略しました。講演の順番は変更することがあります）

◆開会挨拶 一般社団法人 日本飼料用米振興協会　理事長　海老澤恵子

◆基調講演１　「飼料用米の推進について」
川口 正一　農林水産省 政策統括官付穀物課　企画班　企画係長

◆基調講演２　「飼料用米の位置づけと今後の展開方向：生産、利用、消費、政策の各サイドから考える」
信岡 誠治　一般社団法人日本飼料用米振興協会　理事　博士（農学）
小針 美和　株式会社農林中金総合研究所　調査第一部　主任研究員
山野 薫　一般社団法人　農業開発研修センター　研究員　博士（農学）
小川 真如　一般財団法人農政調査委員会　専門調査員　博士（人間科学）・修士（農学）

◆意見交換会（質疑応答を含む）

◆結語　加藤 好一 副理事長（生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 会長）

# 第４回　コメ政策と試料用米に関する意見交換会　出席者名簿

| | 氏　名 | 所　属 | 部　署　／　役　職 |
|---|---|---|---|
| 1 | 小野崎 洋治 | JA 茨城県中央会 | 県城営農支援センター　技術顧問 |
| 2 | 吉田 健人 | JA 茨城県中央会 | 県城営農支援センター　一般職 |
| 3 | 御手洗 剛志 | 中部飼料株式会社 | 仕入部　仕入課主任 |
| 4 | 蓮尾 隆子 | 家庭栄養研究会 | 常任顧問 |
| 5 | 菅田 武志 | 株式会社北川鉄工所　サンテックカンパニー プラント統括部環境営業課　課長 | |
| 6 | 藤井 康夫 | 木徳神糧株式会社 | 飼料事業部　主任 |
| 7 | 村田 洋 | 株式会社秋川牧園 | 生産部　次長 |
| 8 | 互 泰行 | のりす株式会社 | 代表取締役 （有）中井農産センター　副代表 |
| 9 | 渡辺 正彦 | 飼料通信社 報道 | 編集部　記者 |
| 10 | 佐藤 淳 | 宮城県農政部みやぎ米推進課 | 水田農業班　技術補佐（班長）技術主幹 |
| 11 | 田島 浩和 | 佐賀県 | 畜産試験場　場長 |
| 12 | 唐沢 祥平 | 株式会社米穀データバンク　報道 | 編集部　記者 |
| 13 | 加藤 栄一 | 協同組合 日本飼料工業会 | 総務部　飼料米 PT 兼任課長 |
| 14 | 小田 一仁 | 時事通信社　報道 | 金融市場部　記者 |
| 15 | 藤田 綾 | 時事通信社　報道 | 経済部 |
| 16 | 熊野 孝文 | 株式会社米穀新聞社　報道 | 記者 |
| 17 | 四方 平和 | 近江度量衡株式会社 | 営業本部　技術推進部長 |
| 18 | 佐橋 正文 | 株式会社 NBS ロジソル | 国際事業本部　国際営業部　課長 |
| 19 | 濱安 修 | 株式会社農経新報　報道 | 営業企画 |
| 20 | 堤 英祐 | 一般社団法人循環資源再生利用ネットワーク | |
| 21 | 石浦 啓佑 | 三井物産アグロビジネス株式会社 | 肥料製品本部・総合企画室 |
| 22 | 羽田 美里 | 株式会社農経新報社　報道 | 編集グループ |
| 23 | 鈴木 猛 | 生活クラブ事業連合会 | 事業本部事業一部　米・畜産課　担当 |
| 24 | 亀島 陽介 | 株式会社鶏鳴新聞社　報道 | 編集部　記者 |
| 25 | 板倉 直樹 | 株式会社日本農業新聞　報道 | 広報局 広告部　担当 |
| 26 | 山﨑　藍子 | 千葉県畜産総合研究センター | 企画環境研究室　研究員 |
| 27 | 林 哲司 | 井関農機株式会社 | 夢ある農業総合研究所　顧問 |
| 28 | 板井 大輔 | 農林中央金庫 | 営業第二部　部長代理 |
| 29 | 岩崎 理峻 | 農林中央金庫 | 営業第二部　融資主任 |
| 30 | 澤木 健 | 太陽工業株式会社 | 資材統括本部　事業企画オフィス |
| 31 | 折原 恵理 | 一般社団法人共同通信社　報道 | 経済部　記者 |
| 32 | 塚田 拓 | 関東穀粉株式会社 | 営業第２部　部長 |
| 33 | 佐藤 裕太 | 郡山市 | 農林部農業政策課　主事 |
| 34 | 西 春彦 | 雪印種苗株式会社 | 産地開発グループ　顧問 |
| 35 | 齋藤 健朗 | 富山県農林水産部農業技術課 | 広域普及指導センター　主任普及指導員 |
| 36 | 田所 百愛 | 富山県農林水産部農業技術課 | 広域普及指導センター　技師 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 37 | 野間口　涼 | 伊藤忠飼料株式会社 | 関東支店　飼料課 |
| 38 | 沓沢　俊 | 伊藤忠飼料株式会社 | 関東支店　飼料課 |
| 39 | 多田井 友揮 | 昭和産業株式会社 | 飼料畜産部 業務課　担当課長 |
| 40 | 吉住 功輝 | 昭和産業株式会社 | 飼料畜産部 業務課　担当 |
| 41 | 中澤 靖彦 | シンジェンタジャパン株式会社 | 社長室　種子戦略企画担当部長 |
| 42 | 荒井 純 | 新農林社（農機新聞）　報道 | |
| 43 | 和出 宏二 | 東邦物産株式会社 | 米穀本部　米穀本部長 |
| 44 | 小泉 凡平 | 日本農民新聞社 | 企画・営業部　主任 |
| 45 | 遠藤 雄士 | 全農 | 営農・技術センター　センター長 |
| 46 | 上田 敏明 | 株式会社商経アドバイス　報道 | 編集部　部長 |
| 47 | 渡辺　秀樹 | 日本農産工業株式会社 | 設計調達部　次長 |
| 48 | 山口　修平 | 東京農業大学 | 農学部畜産学科 動物栄養学研究室　４年次 |
| 49 | 木村 洋文 | 株式会社木村牧場 | 代表取締役社長 |
| 50 | 齋藤 泰彦 | 北興化学工業株式会社 | 製品企画部　開発チーム　チームマネージャー |
| 51 | 関口　尊雄 | 農林水産省政策統括官付穀物課 米麦流通加工対策室 消費流通第１班米穀消費流通第１係長 | |
| 52 | 杉山　勝三 | 株式会社 毎日経済通信社　報道 | |
| 53 | 李 想 | 国立大学法人 千葉大学　法政経学部・社会科学研究院　国際政策研究室　准教授 | |
| 54 | 谷口信和 | 東京大学名誉教授 | |
| 55 | 吉武 可那子 | 昭和産業株式会社 | 飼料畜産部 業務課　担当 |
| 56 | 大部桂一 | 日本生活協同組合連合会 | 政策企画室　担当 |
| 57 | 山野　恭伸 | 日本農業新聞 | 編集局　記者 |
| 58 | 伊藤 和夫 | 株式会社鶏卵肉情報センター　報道 | 専務取締役　統括編集長 |
| 59 | 坂本 岳博 | 株式会社全国食鳥新聞　報道 | 編集 |
| 1 | 川口 正一 | 農林水産省／政策統括官付穀物課 | 企画班　企画係長 |
| 2 | 信岡 誠治 | 一般社団法人日本飼料用米振興協会 | 理事　農学（博士） |
| 3 | 小針 美和 | 株式会社 農林中金総合研究所 | 調査第一部　主任研究員 |
| 4 | 山野 薫 | 一般社団法人農業開発研修センター | 研究員　博士（農学） |
| 5 | 小川 真如 | 一般財団法人農政調査委員会 | 専門調査員　博士（人間科学） |
| 6 | 海老澤 惠子 | 一般社団法人日本飼料用米振興協会 | J-FRA　理事長　中野区消団連副会長 |
| 7 | 加藤　好一 | 一般社団法人日本飼料用米振興協会 | J-FRA　副理事長　生活クラブ事業連合会長 |
| 8 | 木村 友二郎 | 一般社団法人日本飼料用米振興協会 | J-FRA　理事　木徳神糧株式会社顧問 |
| 9 | 阿部 健太郎 | 一般社団法人日本飼料用米振興協会 | J-FRA　理事　昭和産業株式会社飼料畜産部長 |
| 10 | 岩野 千草 | 一般社団法人日本飼料用米振興協会 | J-FRA　監事　中野区消団連 |
| 11 | 若狭 良治 | 一般社団法人日本飼料用米振興協会 | J-FRA　理事・事務局長　NPO 未来舎副理事長 |

２０１９年１１月１３日（水）　　一般社団法人日本飼料用米振興協会

**第４回　コメ政策と飼料用米の今後に関する意見交換会２０１９資料**

編集作成：一般社団法人 日本飼料用米振興協会

作成担当：理事・事務局長　若狭良治

作成月日：２０１９年１１月１３日（水）会場配布

ＵＲＬ　　：http://www.j-fra.or.jp/

お問い合わせ先：postmaster@j-fra.or.jp

非 売 品：意見交換会終了後、ホームページからダウンロードできます。

第６回（通算１３回）飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会

# 令和元年度
# （第４回）飼料用米多収日本一表彰式
# （第３回）飼料用米活用畜産物ブランド日本一表彰式
# （第６回）
# ～飼料用米普及のためのシンポジウム２０２０　～

開催月日：２０２０年3月１８日（水）
開催時間：開場　１０：３０　開会　１１：００　～１７：００
　シンポジウム一部　１１：００　～　１２：００
　資料展示・試食会　１２：００　～　１２：５０
　表彰式　１３：００　～　１４：２０
　シンポジウム二部　１４：４０　～　１７：００
会　　場：東京大学・弥生講堂（シンポジウム・表彰式）、ロビー（資料展示）、会議室（試食会）
受付開始：２０２０年１月上旬
受付窓口：一般社団法人　日本飼料用米振興協会

メールアドレス　symposium20200318@j-fra.or.jp　（2020 年１月初旬に設定します）

## 主催　一般社団法人　日本飼料用米振興協会

## 後援　（申請中）農林水産省（昨年実績）

飼料用米多収日本一表彰式　共同開催　一般社団法人　日本飼料用米振興協会／農林水産省
飼料用米活用畜産物ブランド日本一表彰式　主催　一般社団法人　日本養豚協会　後援　農林水産省